

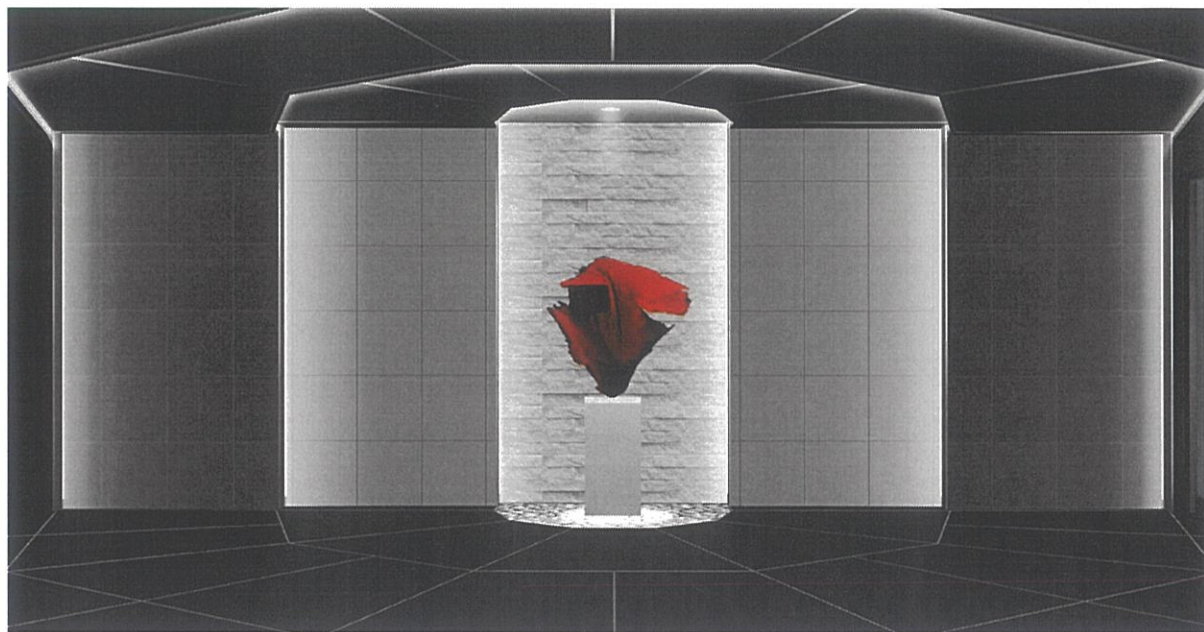
作品の設置方法を選んで、チェックをつけてください

台座置き

壁付

※台座置き作品は台座のサイズも分かるように記入すること  
※台座のサイズは幅 400 × 奥行 400 × 高さ 100~1000mm

作品 および 設置イメージ・説明・制作方法



作品サイズ: W80×D90×H85(cm)  
展示台サイズ: W40×D40×H80(cm)

日本における漆の歴史は縄文時代前期に遡り、土器や土偶に漆が塗られ、特に赤色漆で塗られたものは魔除け・生命の再生・隆興を意味したものではないかと言われています。漆は一度硬化すると条件によっては数千年たっても色や性質が変化しないほど非常に強靱な塗膜を形成します。その最大の特徴として美しい艶があり、奥深い黒とパワフルな赤はこれまで人々の心を魅了してきました。私はこれまで、漆を用いてパブリックの場で展示する漆オブジェと呼ばれる漆造形作品を制作しており、漆の美しさや魅力をより多くの人に知って欲しいと思っています。



仕上げの色と艶のイメージ

本作品は外側が黒漆、内側に赤漆を塗り、磨き上げることにより鏡面に仕上げます。素材は飛鳥時代から使われている革を漆で固めることにより造形する漆皮技法で制作しています。これは現代ではあまり使われなくなった技法ではありますが、革素材の特徴である伸縮性を生かした

漆制作を展開するのに適しており、革を引っ張ったり、皺を付けたりする制作過程の中に、偶発的な形と出会い、その自由な形と美しい曲面を漆で留めることにより、自然の造形のような生命力のある豊かな形が創造できます。

本作品は一見すると花が咲いたような形にも見え、底から生じた繊細な皺は上にいくほど広がり、最後は皺から解き放たれます。その形からは人生も一つ一つ積み上げていけば、安寧になり、輝ける意味も込められ、展示スペースの放射線状となるデザインと相応すると考えます。使われている色の赤は自信や勇気を持たせ、ストレス解消にも効果があると言われています。この漆の花からエネルギーを受け取ってもらい、少しでも居住者の一日の疲れを受け止め、発散できる一役を担えればと願っております。

本作品の制作工程と漆皮技法

・形を生み出す過程

・素地固め、麻布貼りや下地付け



一枚の鹿革を押し型に被せる。下向きに垂れる部分を引っ張ることによって動きを出す。ネジで形を合板に固定する。



革に生漆を吸い込ませて固めてから、表面に麻布を3枚貼り、木くずに漆を加えたココソ漆によって形を整えることにより、漆塗りの原型素地が完成する。

作品名	power of flower	作品NO.	12
素材	漆・鹿革・麻布	想定重量	7 kg
作品サイズ	横幅 800 × 高さ 850 × 奥行 900	(単位: mm)	

作品コンセプト

私は飛鳥時代から使われている革を漆で固めることにより造形する漆皮技法で制作している。革素材の特徴である伸縮性を生かした漆制作を展開している。革を用いて制作過程の中に、偶発的な形と出会い、その自由な形と美しい曲面を漆で留めることにより、自然の造形のような生命力のある豊かな形が創造できる。本作品は一見すると花が咲いたような形にも見え、底から生じた繊細な皺は上にいくほど広がり、最後は皺から解き放たれる。その形からは人生も一つ一つ積み上げていけば、安寧になり、輝ける意味も込められ、展示スペースの放射線状となるデザインと相応すると考える。作品は外側が黒漆、内側に赤漆を塗り、磨き上げることにより鏡面に仕上げる。使われている色の赤は自信や勇気を持たせ、ストレス解消にも効果があると言われる。この漆の花からエネルギーを受け取ってもらい、少しでも居住者の一日の疲れを受け止め、発散できる一役を担えればと願う

【過去の自分の作品】 ※画像や写真等を配置もしくは貼り付けてください

革素材を用いた漆皮による造形作品

